



日本は外国人労働者の受け入れに見合った社会になっているか？を問う 集英社新書『国家と移民 外国人労働者と日本の未来』

（鳥井一平・著）

2020年6月17日（水）発売 定価：本体860円＋税 256P ISBN 978-4-08-721125-2

「移民社会」はすでに始まっています。少子高齢化が進む日本が持続可能な「次の社会」は、外国人労働者の活躍、存在なしには考えられません。2019年4月、入管法の改定で、在留資格「特定技能」による外国人労働者の受け入れが政策的にも始まりました。しかし、日本は受け入れに見合った社会になっているのでしょうか？ 現実には技能実習生が、「時給300円」に象徴される奴隷労働構造の中で働いたり、ヘイト犯罪、コロナ禍での一方的な雇止め等の人権問題が山積しています。外国人労働者と共生する社会、移民社会に必要な条件とは？ NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」で注目され、アメリカ国務省から「人身売買と闘うヒーロー」として表彰された鳥井一平氏が、本書で問う。

◆推薦◆

「著者は常に外国人労働者の『現場』を生きてきた。踏みつけられた者の側に立ち、闘い、告発してきた。本書は『国際化社会』の裏側にある欺瞞を鋭く撃つ」

—安田浩一氏(ジャーナリスト)

「読み終えて感動し泣いた。普通の人々が鬼畜になる日本の近代産業史はホラー映画そのものだ。その中であっても、人間の良心は生き続けている」

◆目次◆

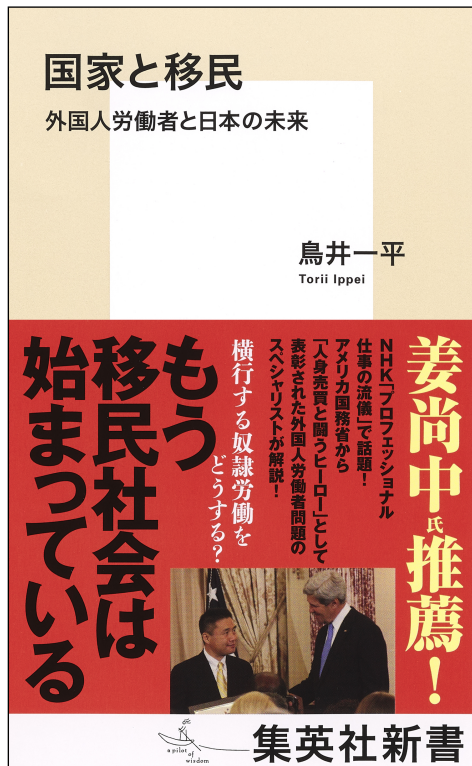
プロローグ いらないことになっている「外国人労働者」が日本経済を支えてきた

- 第1章 外国人労働者をめぐる環境
- 第2章 外国人労働者奮闘記——モノ扱いが横行する現場
- 第3章 「外国人」労働者受け入れ政策の歴史
- 第4章 これからの移民社会

◆著者略歴◆

○鳥井 一平 （とりい・いっぺい）

1953年、大阪府生まれ。特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）代表理事。全統一労働組合外国人労働者分会の結成を経て、1993年に外国人春闘を組織化。以降の一連の長き外国人労働者サポート活動が評価され、2013年にアメリカ国務省より「人身売買と闘うヒーロー」に日本人として初めて選出、表彰される。



※書影データをご用意しておりますので、書評でお取り上げくださいます際にはお気軽にお声がけください。

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社 集英社 広報部

高橋勇人 電話

03-3230-6314 FAX 03-3238-9240

新書編集部 伊藤直樹 電話 03-3230-6391 メール